

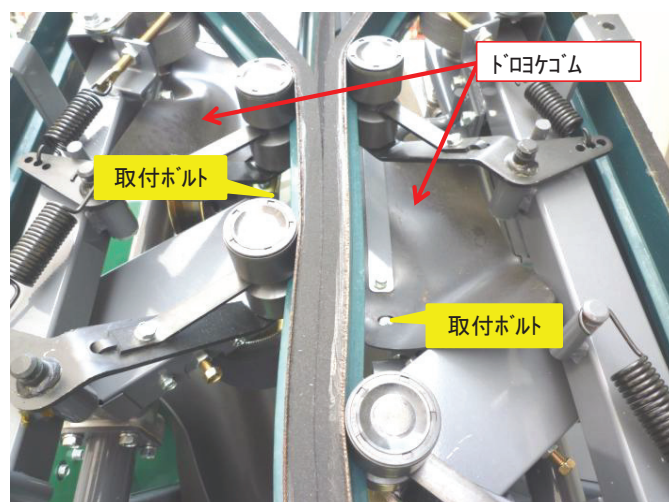
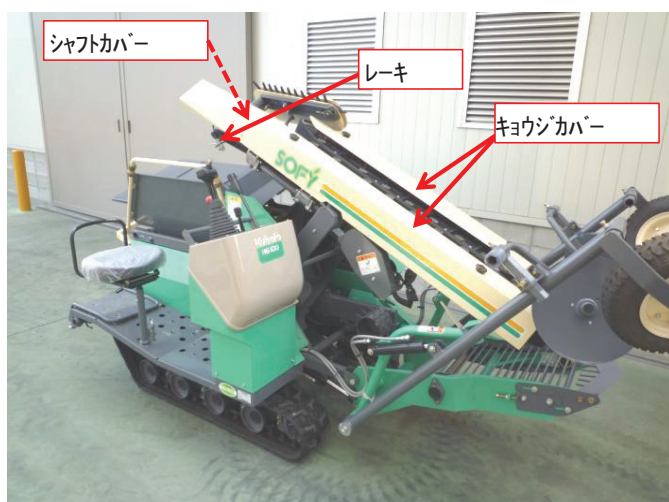
HGタシベルト交換手順書

2017.12.14

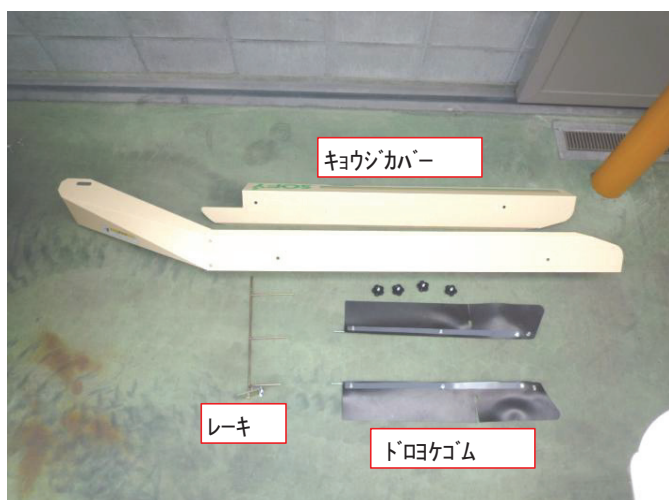
1. カバー類の取り外し

使用工具: スパナ10、プラスドライバー

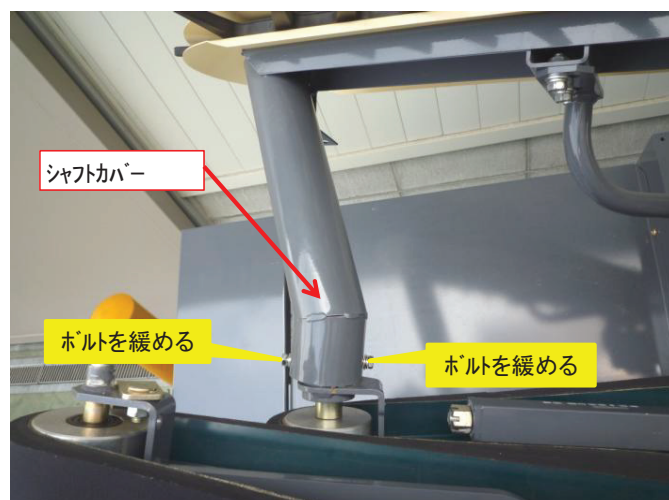
キョウジカバー、ドロケゴム、レーキを取り外し、シャフトカバーの取付ボルトを緩めます。



※キョウジベルトの取り付け方向については5の項目に記述しています。



取り外したカバー類

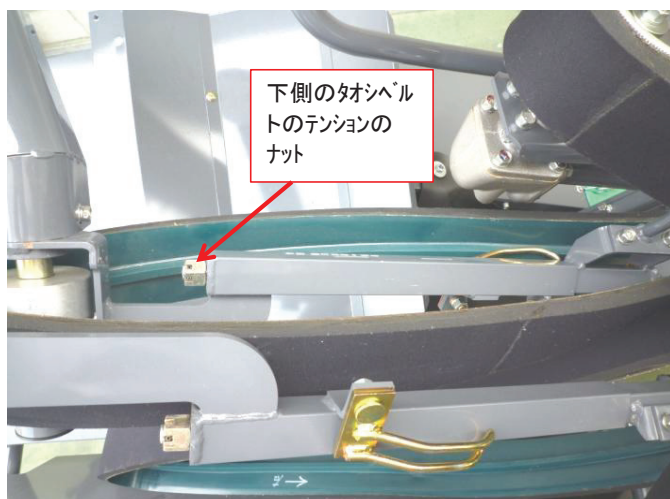


シャフトカバーのボルトを緩めます。

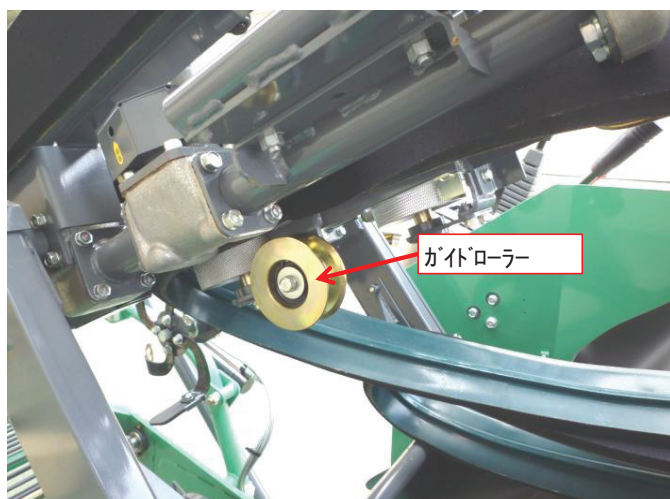
2. ベルトの取り外し、交換

使用工具: スパナ12、ラチェットレンチ19orスパナ19

上側のテンションのナットをラチェットレンチ19などでゆるめます。
(右方向に回すと緩みます。)タシベルトが十分緩んだら取り外します。
(上側のタシベルト)



同様に下側のテンションのナットをラチェットレンチなどでゆるめます。
(右方向に回すと緩みます。)



ガイドローラーを取り外します。



この状態で古いタシベルトをはずし
新しいタシベルトに入れ替えます。
このときタシベルトの組付け方向に注意。

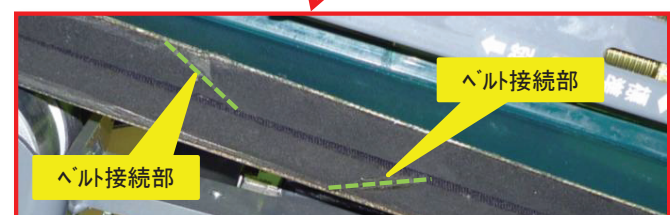


ガイドローラーを取りつけます。
テンションのナットをまわし、たるみがなくなる程度に張ります。

タシベルトの組付け方向



上側のタシベルト(新しい)を取りつけます。
このときタシベルトの組付け方向に注意。
テンションのナットをまわし、たるみがなくなる程度に張ります。

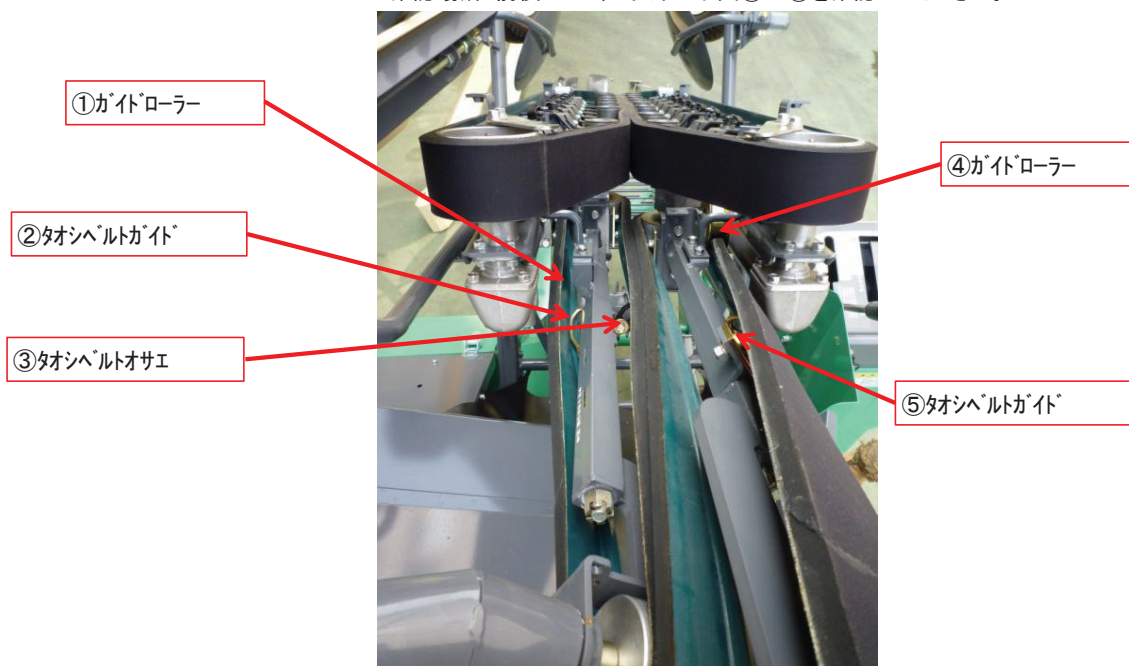


3. ベルトの張り調整

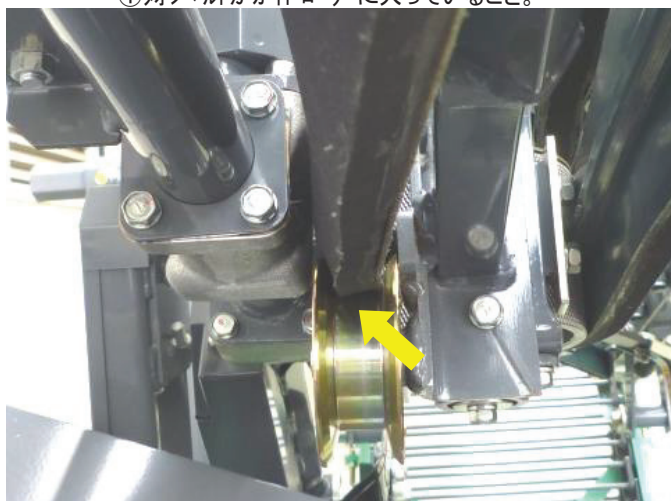
使用工具: スパナ12、ラチェットレンチ19orスパナ19

・ベルトのガイド用の棧がプーリーやガイドに入っているのを確認してから、ベルトを正規の強さに張ります。

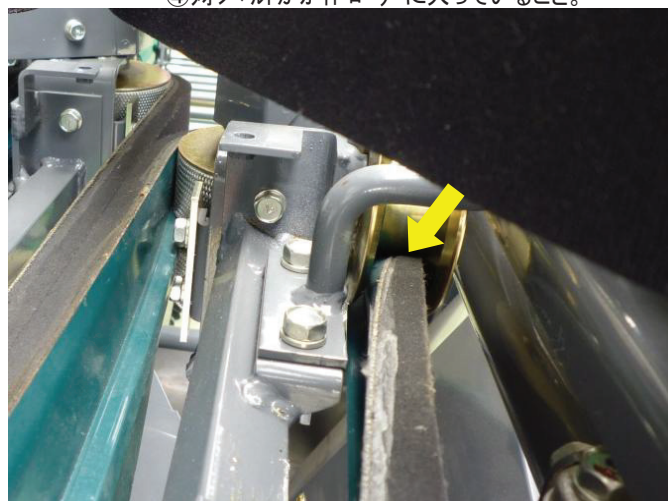
確認場所: 前後のプーリー以外に下図①～⑤を確認してください。



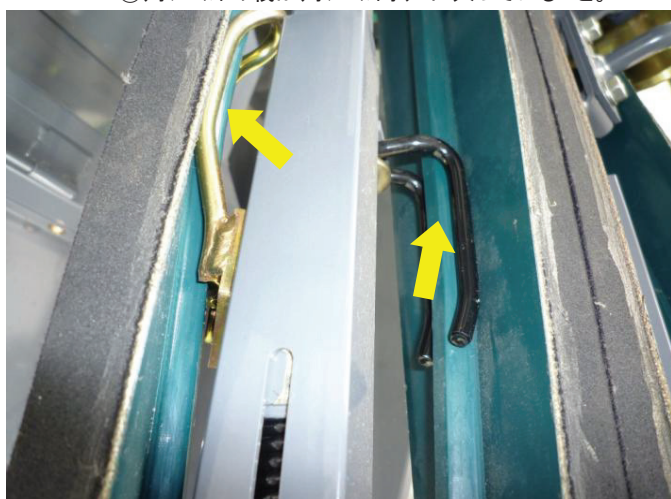
①タオシベルトがガイドローラーに入っていること。



④タオシベルトがガイドローラーに入っていること。



②タオシベルトの棧がタオシベルトガイドに入っていること。
③タオシベルトの棧がタオシベルトオサエに入っていること。



⑤タオシベルトの棧がタオシベルトガイドに入っていること。



- ・ベルトを適正な張りに調整します。

下側ベルトの調整



上側ベルトの調整



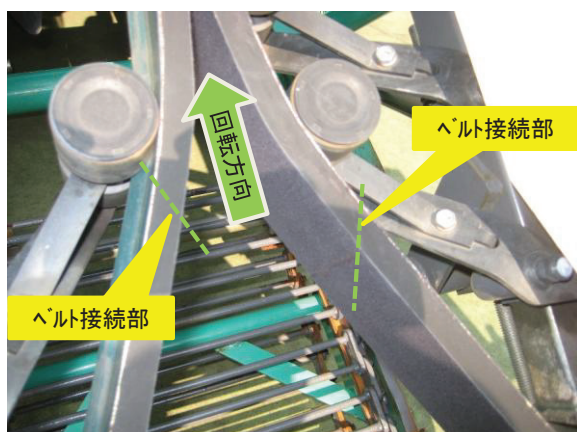
- ・上下とも内部のナットが標準位置にくるように調整してください。
- ・作業部を駆動して、ベルトを数回転させ、ベルトの調整が標準位置で安定しているか確認してください。

4. カバー類の取付

使用工具: スパナ10、プラスドライバー

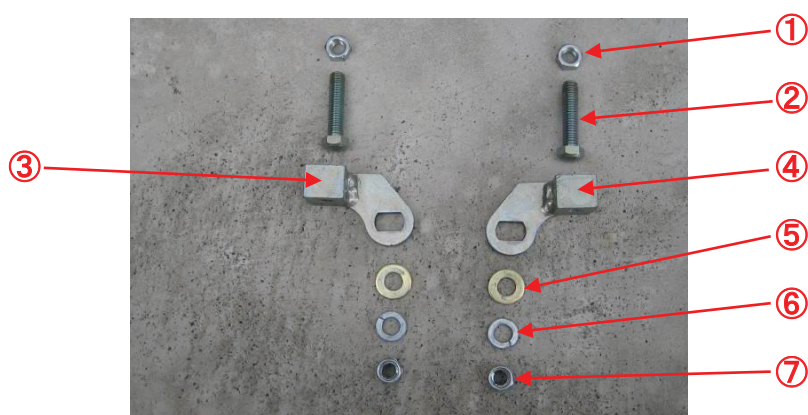
- 最後にカバー類を取付けて完了です。
- シャフトカバーの取付ホルトを締め付ける。
- レーキを取り付ける。
- ドロケゴムを取り付ける。
- キョウジカバーを取り付ける。

5. キョウジベルトの取り付け方向

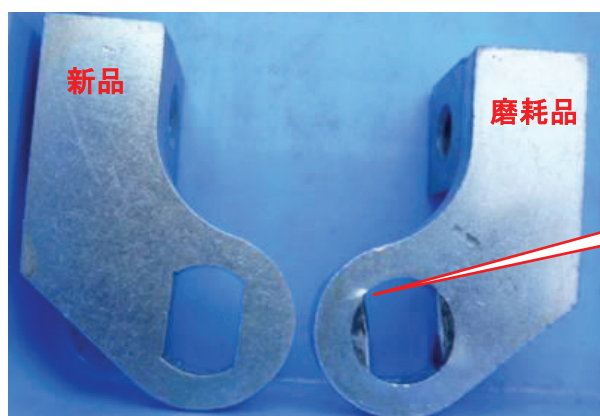


取付け不良の場合、ミッションが破損する恐れがあります。
この交換調整要領書に沿って作業を行ってください。

1.使用部品一覧



No	品 番	部 品 名	数 量	備 考
①	9140703	コガタナット M8	(2)	
②	7640474	プッシュボルト	(2)	
③	7630587	サイドクラッチアームL	1	
④	7630588	サイドクラッチアームR	1	
⑤	9240108	サガネ M8	(2)	
⑥	9210008	Sワッシャ M8	(2)	
⑦	9290158	コガタUナット M8	(2)	



角が磨耗(へたり)し、取り付け
がたが大きくなっている。
又、角に返りも出来ている。

2. 準備



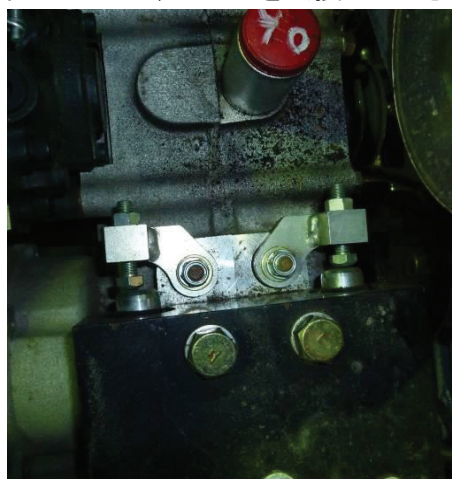
ボルト4本を緩めてカバーを取り外して下さい。



下の写真の様な状態になります。



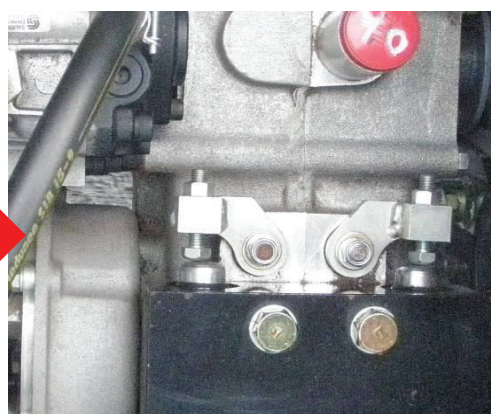
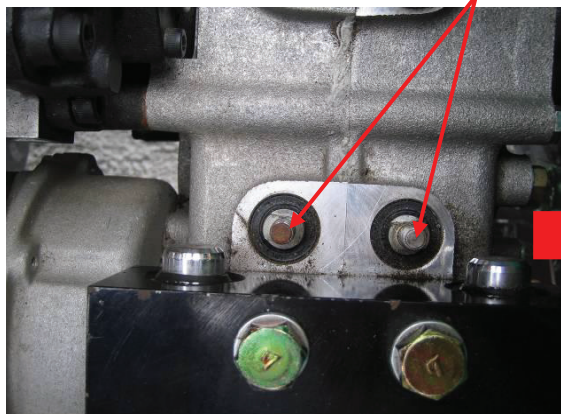
磨耗したサイドクラッチアームを交換して下さい。



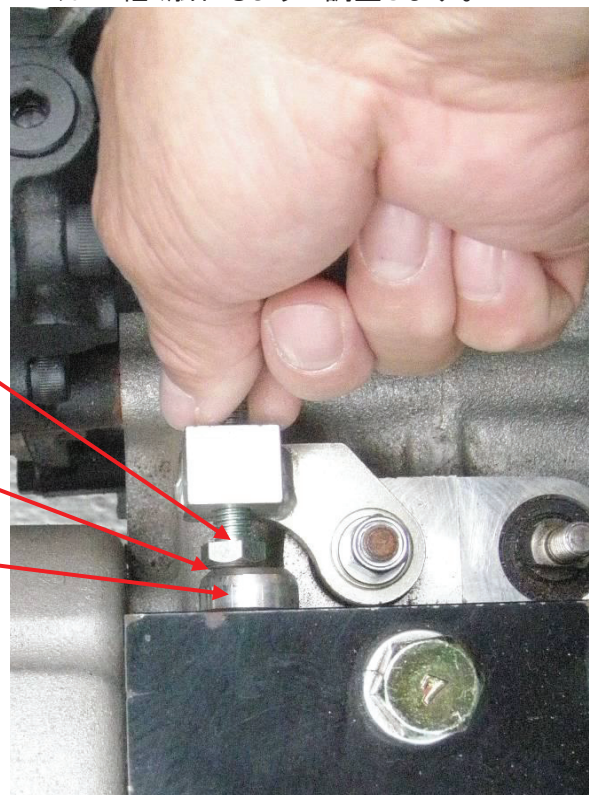
3. 交換調整要領

(1) サイドクラッチアームをミッションのクラッチシャフトに取り付けます。

クラッチシャフト



(2)クラッチシリンダのロッドが最縮の時にプッシュホルツが、クラッチシリンダのロッドに軽く触れるように調整します。



プッシュホルツ

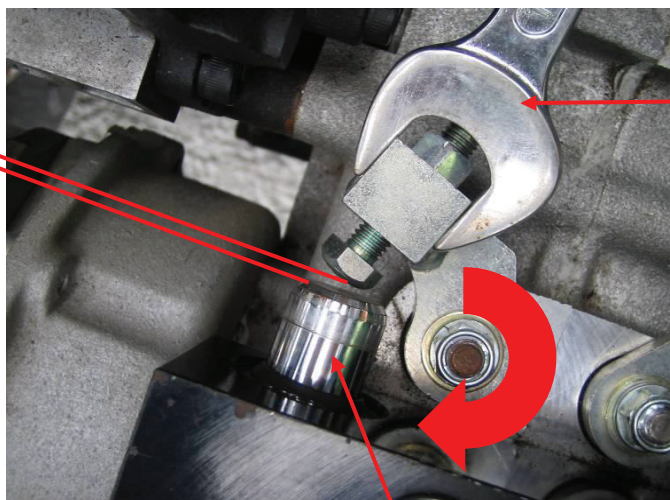
隙間が0になる様にプッシュホルツを調整

クラッチシリンダのロッドが最縮の状態

隙間があってはいけない



(3)クラッチシリンダのロッドが最伸びの時に、サイドクラッチアームL/Rに動き代が、わずかでも有る事を確認して下さい。(素手では固くて動かないので、19スパナ等で掴んで下さい。)



19スパナ

わずかでも
隙間が出る事

クラッチシリンダのロッドを最伸びにする

現象； 掘り取り部が上昇したまま下らない。（掘り取り部を上昇方向に操作すると油圧がリリーフしている）
但し、掘り取り部の昇降以外の油圧動作は問題なく作動する。（ゲージ輪は昇降する）

原因； ①パイロットチェック弁付近が油圧ロックを起している。
②パイロットチェック弁（又は、エルボの絞り）にゴミ詰まりを起している。

対応方法； ①パイロットチェック弁の絞りの入ったエルボの配管を緩めて、ロックした油圧を解除する。
②パイロットチェック弁を交換する。
（パイロットチェック弁はASSY購入なので分解図は有りません。）
（分解修理した場合の作動保証は出来ません）

1. ゲージ輪を最上昇にして下さい。

ゲージ輪の油圧シリンダーが一番縮んだ状態にして下さい。



油圧シリンダーが一番縮んだ状態

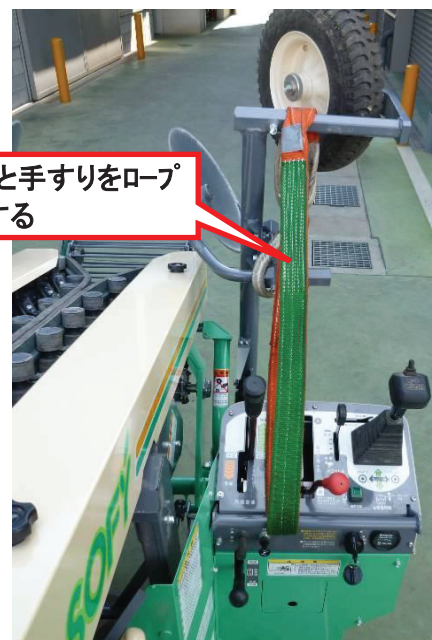


2. ゲージ輪と手すりをロープで固定する。

掘り取り部の落下防止の為、ゲージ輪と手すりをロープで固定して下さい。

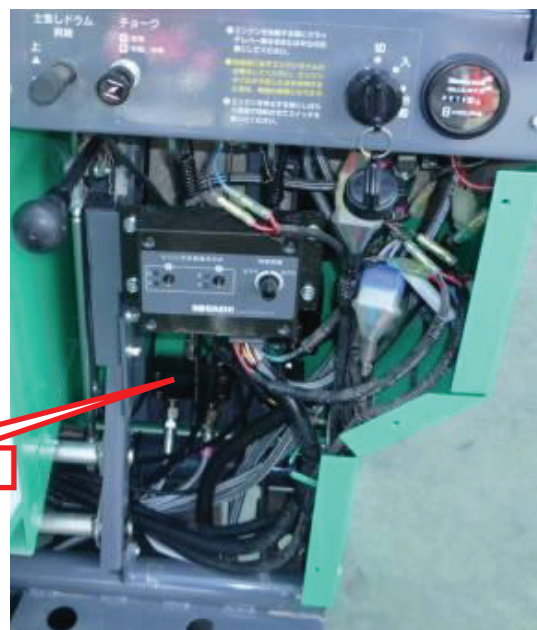


ゲージ輪と手すりをロープで固定する



3. 操作パネル下側のカバーを外して下さい。

パイロットチェック弁が見える状態にして下さい。

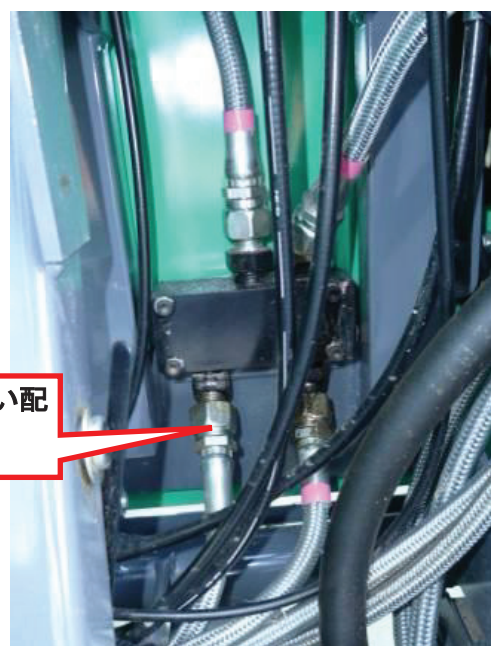


パイロットチェック弁

4. ピンクの目印の無い配管を緩めて下さい。

パイロットチェック弁の絞りの入ったエルボの配管を緩める。

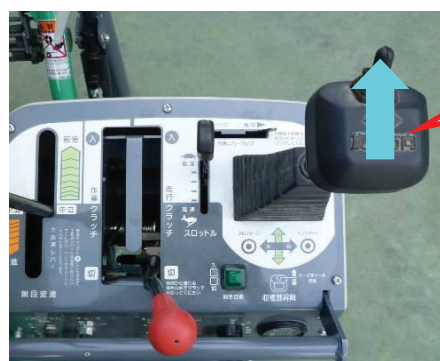
(油が飛び散らない様に、ウェスで包んで下さい)



ピンクの目印の無い配管を緩める

5. 2～3回油を一瞬だけ流して下さい。

エンジンを始動させ、操作レバーを前に倒して油を一瞬だけ流してください。
これを2～3回繰り返して下さい。
その後、緩めた配管を増し締めして下さい。



操作レバーを前に倒す

6. 作動確認

操作レバーを操作し、掘り取り部が上下する事を確認してください。
その後、取り外したカバーを取り付けて下さい。

7. 作動しない場合

- ①パイロットチェック弁（又は、エルボの絞り）にゴミ詰まりを起しています。
- ②パイロットチェック弁を交換して下さい。
（パイロットチェック弁はASSY購入なので分解図は有りません。）
（分解修理した場合の作動保証は出来ません。）



小橋工業株式会社

〒701-0292 岡山市南区中畦684

インターネットでも弊社の情報がご覧いただけます。

<http://www.kobashiindustries.com>

■北海道営業所	〒071-1248	北海道上川郡鷹栖町8線西2号6番	☎ (0166) 49-0070
■東北営業所	〒024-0004	岩手県北上市村崎野13地割35-1	☎ (0197) 71-1160
■関東営業所	〒321-3325	栃木県芳賀郡芳賀町芳賀台47-1	☎ (028) 687-1600
■新潟営業所	〒942-0041	新潟県上越市安江477-1	☎ (025) 546-7747
■岡山営業所	〒701-0165	岡山市北区大内田727	☎ (086) 250-1833
■九州営業所	〒861-2236	熊本県上益城郡益城町広崎1586-8 2F	☎ (096) 286-0202